

第8回帯広市総合計画策定審議会 議事概要

1. 日 時 平成20年4月21日(金) 16:00~18:10

2. 場 所 市役所10階第5A会議室

3. 議事概要

協議事項

(中間報告(素案)について)

【委員】

P3「時代の潮流とまちづくりの課題」で「ネットワーク社会の進展」について書いているが、人と人のネットワークもどこかに入れてほしい。町内会、NPOなど人のネットワークも進展しており、これからの地域づくりにとって重要なことである。こうしたことを踏まえると「めざすまちの姿」 4の書き込みもネットワーク社会を踏まえてどうしていくのかももう少し深めた方がよい。

【委員】

「ネットワーク社会の進展」では、公共交通についても触れてほしい、「まちづくりの分野別の方向性」においても、都市基盤分野で「まちづくりは大きな転換期を迎えている」との認識が示されているので、「時代の潮流とまちづくりの課題」でも触れてほしい。

【委員】

P6「めざすまちの姿」の 4の、「計画的な市街地開発」という表現は、市街地が拡大していく印象を受けるが、既存の市街地の機能を高め、効率的なまちづくりをすすめるというコンパクトなまちづくりの趣旨が読み取れるような表現にすべき。

また、P13の大学については、「市民の生涯学習活動や地域産業、教育・文化の発展に寄与する」という部分で読み取れるのかもしれないが、全国から学生を呼びこんで十勝の特性に合った特色ある大学にしていくことについて、読み取れるような表現が良いと思う。

【事務局】

4の部分は、これまでの開発型ではなく、形成してきた市街地を活かしながらまちづくりを進めるという趣旨で記述している。

【会長】

「これまでの都市形成による蓄積を活かしながら」というところを前段に持ってきて、今までの開発とは違うことを強調したらどうか。

【委員】

「交通網の整備」は、公共交通を含めた交通網と理解していたが、道路交通網のことを言っているのであれば、公共交通を含めた意味合いとなるよう表現を考えてほしい。

【事務局】

公共交通については、「まちづくりの分野別の方向性」で記述している。先ほど「時代の潮流とまちづくりの課題」でも書くべきというお話があったが、「時代の潮流とネットワーク社会の進展は、ハードの整備が進みその活用が求められているという全国共通の大きな流れとして書いており、むしろめざすまちの姿に入れた方が良いのではないかと思う。

【委員】

課題があって「めざすまちの姿」につながるのだと思う。課題として認識するところからはじめないと「めざすまちの姿」の趣旨がズレてしまう。道路の一部としての括りではなくできれば個別に表現していただきたい。

【事務局】

公共交通は大事なことであるが、地域の課題ということであれば「まちづくりの分野別の方向性」や「めざすまちの姿」で書いてもよいのではないかと思う。

【会長】

「時代の潮流とまちづくりの課題」で書かれたものが、そのまま「めざすまちの姿」で書かれるという1対1の関係ではないと思う。逆に言うと、全国的な課題として認識されなくても、市として課題であれば、「めざすまちの姿」、「まちづくりの分野別の方向性」で書いていかなければならないものと思う。時代の潮流と課題は、全国共通の課題について書くものだと思う。

【委員】

P 16の広域連携だが、効率化のためだけの連携ではなく、図書館や文化ホールの広域的な利用の利便性を高める取り組みなど文化面などでの広域連携があってもよい。

【委員】

地方分権が進む中、地域全体が自立したまちづくりを進めていくには、帯広市がリーダーとしての役割を担えるまちづくりが必要。自ら宣言し、そうした方向を打ち出すことが必要。

【委員】

リーダーというよりむしろコーディネーター的な役割になるのではないか。

【委員】

例えばDV相談は、A町の人が地元のA町の役場にはなかなか行けないもの。そうした人が帯広市に来て相談したいと思っても体制が整っていない。こうした相談業務は十勝支庁が主に対応しているが支庁に荷重がかかっている実情がある。広域連携は生産的な分野には目が向けられるが、住民の安心安全に関わっている部分も担うということを積極的に打ち出した方が良い。

【委員】

経済だけでなく、地域や家庭の中にまで効率とスピードが求められるライフスタイルになってきている。こうした中、心がほっとする場所が家庭にも地域にもなくなってきていると感じる。仕事は効率性とスピードを求める一方で、家庭や地域などでは心のゆとりを求めるような、スローライフともいえるべきライフスタイルの実現を打ち出せないものか。

【委員】

「人権」という言葉があちこちに出てきているが、「人権」は政治的な問題として利用されることや、人権のために人権が蹂躪されていることもあり、表現は注意した方がよい。例えばP7などは、「障害の有無や年齢・性別に関わりなく互いに支えあうことにより・・・」など、「人権」という言葉を削除としても意味は通じるのではないかと思う。

【事務局】

これまでの議論の中で出てきた話をまとめたものであるが、気になるということであれば削除したい。

【委員】

P11で、「特色ある観光資源に恵まれている」とあるが、修学旅行生の誘致なども視野に入れ、農畜産加工施設を活用した体験型の観光を目指すことについて記述してほしい。

【会長】

ここでは「食」について触れられており、趣旨は盛り込まれているものと思う。

【委員】

帯広・十勝の観光の課題は、様々な資源を持っているものの、関係者間で情報交換がなされておらずそれが十分に活かされていないということだと思う。連携して一体感を持って発信していくことが必要。

【委員】

先ほど話があったコーディネーターとしての役割は観光面でも考えられると思う。そうしたニュアンスがあっても良いのではないか。

【会長】

コーディネートしていくという趣旨は盛り込まれているものと思う。

【委員】

中間報告が具体的なものを示すものではないということであれば、いまの文言でよいのではないかと思う。

【会長】

中間報告では、総合計画のうち基本計画に関する部分をまとめているが、今の話は推進計画で出てくるところ。基本構想、基本計画について議論していることを今一度認識していただきたい。

【委員】

P 1 2に「緑を増やしていく取り組みをすすめていく」とあるが、帯広の森も植樹から適切に維持していく方向に移ってきているので、増やすだけでなく質の向上についても書いてほしい。

【事務局】

ご意見の趣旨を踏まえて整理したい。

【委員】

子どもたちに昔の農業と今の農業の違いなど、地域の小学校や保育所で農業について伝える活動を行っており、帯広にとって農業は文化と言えるのではないかと思う。P 1 4で「良質な文化・芸術に触れる」とあるが、農業も文化だということを書いて

ほしい。

【会長】

農業を生産だけではなく、違った角度から見るのは大事なことと思う。

【委員】

P 6「めざすまちの姿」 5では、1文節目に子どもの教育と生涯学習が書かれているが、1文節目に子どもの教育、2文節目に生涯学習と分けて書いた方が分かりやすいのではないか。また、「学校と家庭や地域社会が一体となって」というのはそのとおりだが、その前に、「学校教育の充実はもとより」という文言を入れてほしい。

P 13であるが、時代が変わっても「生きる力」を育てていくということは、教育で一番大切なことだと思う。「生きる力」とは、確かな学力、豊かな心、たくましい体でありこうしたことを最初に書いた方がよい。

【委員】

地域産業の振興を図る上で中小企業を育成する視点が必要。また、道ではIT産業の育成を打ち出しており、今後、こうした道の施策とリンクしながらIT産業を育成、さらには、加工の体制、地産地消ということを含めた文言がどこかに入らないか。

【事務局】

ITの具体的な展開について想定しているものがあれば教えていただければありがたい。

【委員】

帯広にも頑張っているソフト会社があるが、東京・札幌のマーケットに依存している状況。そういう企業を育てるという趣旨か。

【委員】

総合計画が長期計画であることを考えると、5～6年後に北海道全体がIT産業の振興が進んでくることを想定すると、帯広にもITに関する視点が必要だと思う。

【委員】

ITという言葉自体がこれからは当たり前になってくるのではないか。産業の中で読み込んでよいのではないか。

【委員】

P 6「めざすまちの姿」の 3についてであるが、年金生活者になると教養・娯楽費、

交際費を削るようになる。これからそうした人たちが増えてくることを考えなければならぬ。一方では、地域の商業を潤すためにも高齢者を外出させる手立てが必要。人を動かす方法を考えることが活性化につながるものと思う。

【委員】

P 1 0 に「日本の食料基地」という記述があるが、十勝の農畜産物は安心安全だということを入れてほしい。

また、観光では、やはり食べ物がおいしいということが帯広・十勝の特徴になるものと思う。食の観光をもう少し強調してはどうか。

【委員】

大学などの高等教育機関が地域の知のコーディネートの拠点になり得る。また、進路の確保や他地域から学生を呼ぶことだけでなく、社会人やこれからの人生を積極的に生きたい人のキャリアの形成の場として充実する必要がある、ネットワーク化、共同研究の推進などにより充実を図るべきである。

【事務局】

本日の議論の中で、もう一度整理して審議会としてまとめていただきたい部分が何点かある。

1 点目は、人権の扱いをどのようにするのか。

2 点目は、中小企業育成の部分で、IT 産業という書き込みをするのか？ IT 産業以外にもバイオ産業などもあるが、表現をどうするのか。

3 点目は、広域連携だが、P 7 の「めざすまちの姿」では効率化や広域化に関する記述しかないが、より積極的に連携を進めるとのご意見なのか。

4 点目は、スローライフという話があったが、めざすまちの姿で整理するのか分野別の方向性で整理するのか。

以上について、もう一度確認をお願いしたい。

なお、分野別の方向性での意見は、可能な限り文言整理をさせていただく。

【会長】

IT 産業については、総合計画における基本計画ではなく、推進計画のレベルでの整理が適当だと提案したいが如何か？

(一同了承)

【会長】

スローライフは、積極的に取り組む必要があるという趣旨が。

【委員】

スローライフという表現が適切かどうかは別だが、これだけ豊かな社会になったのに皆が不安を抱いているという現状を考えると気持ちの問題なのかもしれない。

【会長】

これまでの価値観を変えようという事だと思う。その意味では時代の潮流の環境の意識のところで整理してもらえればと思うが皆さん如何か？

(一同了承)

【会長】

人権の扱いについてはどうか。

【委員】

P7の7行目には、「障害の有無や年齢・性別に関わりなく互いに支えあうことにより、人権を尊重し、互いに支えあう～」とあるが、「人権を尊重し」を削除しても十分趣旨は伝わるのではないか。ほかにも全部そうである。

【委員】

私は、「人権」という言葉を思想的、政治的な意味では捉えていない。人権については、人間の尊厳、平等という幅広い意味で理解している。障害のことで言えば一昨年の12月に国連で人権の決議がなされており、それは、思想的、政治的なこととは関係がない。いずれにしても人権が傷つけられているということの認識は共通して持っていたら、削除してもかまわないと考えている。

【会長】

人権尊重というのは、人間として不合理的な差別を受けないということだと思う。差別は時代や地域によって異なる。この帯広で差別をどのように意識し、捉えていかなければならないのかということ考えた上で、扱い方を考えなければならないと思う。

【委員】

政治的だからということではなく、会長が言われたことが共通の認識になれば削除しても良いという意味で申し上げた。

【委員】

時代によっては、そういう言葉が政治性をおびることがあるので「人権」という言葉を削除しても十分意味が通るのではないかということを言っている。

【委員】

「人権」の意味を限定的な意味で解釈すべきでないと思う。

【委員】

「人権」という言葉を幅広い意味で捉えた上で削除するということは問題ないと思うが、限定的な意味で解釈するのは良くないと思う。

【事務局】

5期総では「まちづくりの基本方向」で、人間尊重ということを記述しており、この文言は歴代の計画で受け継がれてきているものである。なお、各論の中では人権という文言を使っている。権利ということではなく、個人を尊重してゆくという過去からの流れがある。

【委員】

いじめの問題など、人とのふれあいが欠けている時代だからあえて入れても良いのではないか。

【委員】

これは表現だけだと思う。障害の有無、年齢、性別、人種などの個々について言うのではなく、個人個人を尊重するということが良いのではないか？

【会長】

「障害の有無や年齢・性別」のあとに「など」を入れてはどうか？これだけに限定してしまうと外はどうかとなってしまう。

【委員】

それを、「ひとりひとり」「個人」を尊重しとしてはどうか。いろんな意味が加わってきて良いと思う。

【委員】

P14の地域社会づくりの2行目「それぞれの人々が、立場の違いを理解し、お互いの人権を尊重し、互いに支えあう～」のところも、人権の部分を削除しても十分意味は通じる。

【会長】

「人権」をどのように認識するかということが重要であり、その上で、落とす落とさないという議論をすべきである。人権というのは人間として不条理な差別を受けないという平等性という精神が大事だと思うが、そういうところを皆さんに認識していただければ、会長としては、めざすまちの姿にあえて記述せず、後段で人権を入れればよいと思う。

こうした認識を前提とし、P7の人権という表現は削除し、各論で人権という言葉を入れるよう整理したいと思うが如何か。

(一同了承)

【事務局】

広域連携の議論は、専門分野など町村の弱いところを補っていくという趣旨であったと思う。「めざすまちの姿」にそういった意図を入れていきたいと考えている。16頁も。

【会長】

いままでやっている広域化を更に進めるということをどう表現するかということだと思う。

【委員】

十勝圏域全体がともに発展していくため、中核都市としての役割を自覚し担っていくという表現を入れて欲しい。中核都市として自覚を持つということが重要だと思う。

【委員】

事務や行政の効率化のための広域連携ではなく、住んでいる人が楽しめる文化面での連携を大きくしていくという連携が必要。

【委員】

各種の大会などは、帯広を中心に開催されているのが実情だが、持ちまわりでやるなど、プラスの部分は町村にも広げていく必要がある。逆に、困っている人に手を差し伸べる行政という意味で、中核都市として36万人の地域に手を差し伸べるという視点も必要だと思う。例えば、介護ヘルパーは郡部では、営業が成り立たないという問題がある。

【会長】

中核都市として自覚するということは、利益を独り占めすることではないということだと思う。

【委員】

P 1 6 の下から 2 行目「医療などの新たな～」の医療の後に観光も入れてはどうか。

【事務局】

広域というのは、あらゆる分野にまたがる部分なので、もう少し表現の整理をさせていただきたい。

【委員】

「めざすまちの姿」には見出しを入れてほしい。

以上